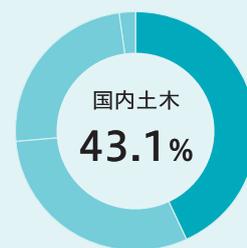


国内土木部門

売上高比率(2023年度)



》目指す姿

技術力で持続的な事業拡大に挑戦

～国土強靱化、防衛力強化、臨海部再編・再生、洋上風力

》基本戦略

国内土木部門は、国土強靱化対策や港湾空港の国際競争力強化等の公共投資に加え、民間設備投資も堅調です。2023年度は、前年度に受注した国内最大規模の自衛隊の基地建設に伴う大型港湾工事や北九州響灘の洋上風力建設工事等、豊富な手持工事が進捗したことにより、連結売上高2,664億円、営業利益278億円と大幅に増加しました。

今後も国土強靱化等に加え、防衛力強化のための公共事業や2027年度以降一般海域の洋上風力建設が本格化することから、2,500億円を超える高水準の事業量が安定的に見込まれます。

当社事業の中核である国内土木部門の経営基盤を確固たるものにするため、土木分野のリーディング企業として、DX・GXの推進、ターゲットを明確にした技術開発・技術力の強化を推進します。また新たに改訂した行動規範に則り、人権方針や持続可能なサプライチェーン方針・ガイドライン、パートナーシップ構築宣言などを確実に実行することでサステナブルな建設業の発展に貢献してまいります。

》事業の強み・機会・リスクへの対応

強み(内的なプラス要因)

- ▶ 臨海部で培ってきた高度な海洋土木技術
- ▶ 多様な工事に対応できる作業船の保有
- ▶ 部門間連携による課題解決力

リスク

- ▶ 担い手(技術者、技能者)の確保・育成
- ▶ 洋上風車の大型化への対応
- ▶ 建設事業活動のCN化、特に作業船のCO₂排出削減

機会(外的なプラス要因)

- ▶ 国土強靱化等に加え、防衛関連の公共事業の増加
- ▶ 臨海部の製造拠点の再編やCN関連の民間投資の拡大
- ▶ 洋上風力等の再生可能エネルギー市場の拡大

リスクへの対応

- ▶ 多様な人材の確保・育成とDXの推進(生産性向上)
- ▶ 風車大型化に対応できる作業船の建造、作業船団の拡充
- ▶ 作業船のクレーン作業の効率化(ICT・AI活用、電動化)及び燃費低減剤やバイオ燃料の活用による低炭素化

》具体的な施策

① フロントローディングによる総合力の発揮

- ▶ 総合力を活かした海上大型プロジェクトへの取組み強化
- ▶ 戦略的取組みによる陸上土木の強化・拡大

② DXの推進、生産性向上の推進

- ▶ BIM/CIM、AIの活用による施工管理の効率化・高度化
- ▶ プレキャスト化の推進(海上、陸上工事ともに)

③ GXの推進

- ▶ 建設事業活動のCN化(クレーン作業のICT・AI活用、電動化による効率化、燃費低減剤やバイオ燃料の活用による低炭素化)
- ▶ 低炭素資材の活用(低炭素/カーボンネガティブコンクリート等)

④ 人材の育成

- ▶ 事業拡大に見合った人材の確保・育成
- ▶ 働き方改革、D&Iの推進に相応しい職場環境の整備

》中期経営計画(2023~25年度)

最終年度目標 完成工事高:2,650億円 完工総利益率:16.6% 営業利益:307億円



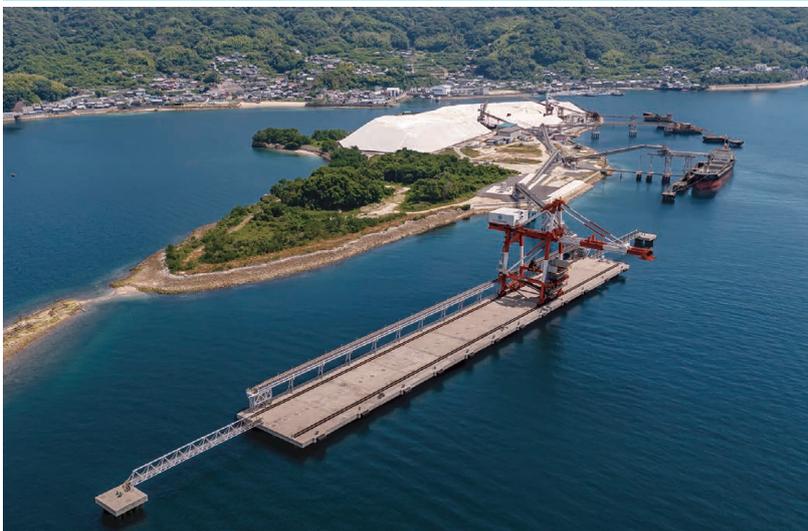
》2023年度の主な竣工工事

新仁賀保高原風力発電所(秋田県)



当工事は、2001年に運転開始した仁賀保高原風力発電所の15基の風車(出力1,650kW)を、陸上風力発電では国内最大級の風車(出力4,300kW)6基に建て替える工事です。全長約60mのブレード輸送では牽引式起立式台車(FTV)を使用する等の様々な工夫を取り入れ、秋田港から現地までの78kmにおよぶ距離を移動させました。

三ツ子島埠頭 第三栈橋(広島県)



当工事は、国内最大の原塩ターミナルである三ツ子島埠頭において、既存施設を供用しながら大規模栈橋(水深18m、延長240m)を建設する工事です。栈橋上部工を前例のない大型プレキャスト部材(1,600t/基×12基)で架設することにより、栈橋施工の急速化と経済性を両立しました。当栈橋構築技術は「令和5年度土木学会賞 技術賞」および「日建連表彰2024 第5回土木賞」を受賞しました。

国内建築部門

売上高比率(2023年度)



》目指す姿

持続的な事業拡大を見据えた経営基盤強化

～技術力に裏打ちされた提案力、施工力の強化

》基本戦略

国内建築部門は、建設資材価格の高騰や供給制約がありますが、旺盛な物流や都市再開発に加え、経済安全保障の観点から製造業の国内回帰や国内の工場再編等、国内の建築需要は旺盛です。加えて、防衛力強化のための自衛隊施設の強靱化等、公共投資の増加も見込まれます。このような中、2023年度は、前年度に受注した国内最大規模の大型再開発工事をはじめ、複数の大型物流工事の本格化により連結売上高1,893億円、営業利益49億円と中期経営計画を上回る増加となりました。

今後も、物流、ゴミ処理施設、再開発に加え、データセンター、商業施設、さらには防衛関連の大型プロジェクトが旺盛であることから、2,200億円を超える高水準の事業量が安定的に見込まれます。

国内建築部門の持続的な事業拡大を確固たるものにするため、部門間連携と外部連携によるフロントローディングの取組みを推進するとともに、DX・GXを推進し、技術に裏打ちされた提案力、施工力を強化します。また新たに改訂した行動規範に則り、人権方針や持続可能なサプライチェーン方針・ガイドライン、パートナーシップ構築宣言などを確実に実行することでサステナブルな建設業の発展に貢献してまいります。

》事業の強み・機会・リスクへの対応

強み(内的なプラス要因)

- ▶ 物流施設等の豊富な設計施工実績
- ▶ 土木部門との連携による臨海部・都市部の地下工事、大規模造成への対応
- ▶ 海外の建築実績(病院、高層建築等)と国際部門との連携によるBIMの推進
- ▶ ZEB等CN関連技術への早期の取組みと設計施工実績

リスク

- ▶ 建設資材価格の高騰、供給制約等による建築費の高騰
- ▶ 担い手(技術者、技能者)の確保・育成

機会(外的なプラス要因)

- ▶ 物流施設、再開発等に加え、データセンター等の旺盛な需要
- ▶ 防衛力強化のための自衛隊施設の強靱化等
- ▶ ZEB等、環境配慮型技術の導入拡大

リスクへの対応

- ▶ フロントローディングによる工事への取組み、省力化・省人化・ユニット化による生産性向上、取引先との持続可能なサプライチェーン構築
- ▶ 現場ICTツールの活用と柔軟な働き方ができる職場環境の整備

》具体的な施策

① フロントローディングによる総合力の発揮

- ▶ 営業・設計・技術・工事一体となったフロントローディングの取組み
- ▶ 大型法定再開発・民間再開発への取組み強化と早期事業化

② DXの推進、生産性向上の推進

- ▶ BIMを用いたデジタルツインの活用推進
- ▶ 現場ICTツールの標準化
- ▶ 省力化・省人化・ユニット化技術の積極的な現場導入

③ GXの推進

- ▶ 設計施工案件のZEB、ZEH-Mの推進
- ▶ 環境配慮型コンクリートの適用拡大

④ 人材の育成

- ▶ 事業拡大に見合った人材確保・育成
- ▶ タスクサポートセンターによる入社8年間の実践的な育成
- ▶ 働き方改革、D&Iの推進に相応しい職場環境の整備

》中期経営計画(2023~25年度)

最終年度目標 完成工事高:2,150億円 完工総利益率:6.0% 営業利益:48億円



》2023年度の主な竣工工事

豊洲 千客万来(東京都)



当施設は、豊洲市場と連携し、豊洲ならではの活気や賑わいを生み出す施設として誕生しました。東京湾を一望できる露天風呂と箱根・湯河原から運ばれる名湯を満喫できる温浴棟「東京豊洲 万葉倶楽部」と、江戸の街並みを現代によみがえらせた飲食街や物販店が入居する食楽棟「豊洲場外 江戸前市場」で構成されています。「食」と「癒し」のスポットとして、名前の通り千客万来な施設として多くのお客様に愛されることが期待されています。

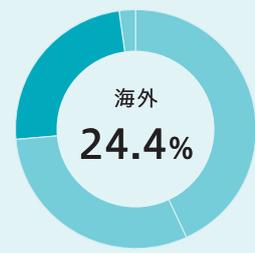
西濃厚生病院(岐阜県)



当工事は、JA岐阜厚生連が揖斐厚生病院と西美濃厚生病院の病床を再編して、400床の西濃厚生病院を新築する工事です。地域の医療サービスを向上させるために最新の医療機器を導入し、最先端の治療を提供するとともに、大規模災害時でも医療拠点として救急医療を継続できる体制を備えています。地域医療の中核施設として、多くの人々に貢献することが期待されています。

国際部門

売上高比率(2023年度)



》目指す姿

国際部門の再生、持続的発展へ

～ターゲットを明確にした利益重視の取組み

》基本戦略

国際部門は、2007年度から2020年度まで14期連続で営業利益の黒字化を継続してきましたが、2021年度以降3期連続で営業赤字となりました。コロナ禍による工事進捗の遅れや資材価格の高騰、ワーカー不足と労務費の高騰等により、シンガポール、香港、アフリカの土木工事で大きな工事損失を計上しました。このような中、2023年度は、工事損失を計上した工事も含め、手持ち工事が進捗したことにより連結売上高は1,506億円と増加しましたが、船舶の不稼働、為替の影響等で42億円の営業損失となりました。

しかしながら、今後も当社の主要拠点のシンガポール、香港をはじめ、東南アジアでは引き続き堅調な建設需要が見込まれます。

当社の特徴である国際部門の再生を果たすため、入札段階からフロントローディングの取組みで、技術的課題や為替、資材調達、地政学的リスク等のリスクを把握し、利益重視で取り組みます。DX・GXを推進するとともに、新たに改訂した行動規範に則り、人権方針や持続可能なサプライチェーン方針・ガイドライン、パートナーシップ構築宣言などを確実に実行することで、海外においてもサステナブルな建設事業活動を推進してまいります。

》事業の強み・機会・リスクへの対応

強み(内的なプラス要因)

- ▶シンガポール、香港等での長年の実績と信頼関係(ローカル化)
- ▶国内土木、国内建築との緊密な部門間連携
- ▶グローバルに稼働できる自社作業船団

リスク

- ▶地政学リスクや新規進出国のカントリーリスク
- ▶現地社員の幹部候補の確保・育成
- ▶自社作業船団の維持と稼働

機会(外的なプラス要因)

- ▶シンガポール、香港、東南アジア等の旺盛な建設需要
- ▶日本政府による質の高いインフラ輸出

リスクへの対応

- ▶早期の情報共有による技術的課題や各種リスクの把握と組織的かつ迅速な対応
- ▶さらなる現地化、グローバル化の推進
- ▶自社船団稼働のための営業強化

》具体的な施策

① フロントローディングによる総合力の発揮

- ▶技術的課題やリスクの抽出と早期対応、案件選別
- ▶国内との部門間連携による技術力の発揮、品質、安全確保の徹底
- ▶シンガポールグループ会社との協業による営業力、コスト競争力、施工力の強化
UG M&E社：設備系子会社(100%保有)
KBE社：土木系持分法適用会社(28.74%保有)

② DXの推進、生産性向上の推進

- ▶統合プラットフォームによる情報共有・工事進捗の可視化
- ▶先進技術、DfMA、MiC、PCaなどのモジュール化施工、施工ロボットの導入
DfMA：Design for Manufacturing and Assembly
MiC：Modular Integrated Construction
PCa：Precast Concrete

③ GXの推進

- ▶グリーン関連技術・資機材、バイオ燃料の導入と効果の検証
- ▶教育によるGXマインドの形成、GXリテラシーの向上

④ 人材の育成

- ▶各国でのサステナビリティ経営の浸透
- ▶現地社員の幹部候補の育成と登用
- ▶グローバルに勤務できる職員の戦略的な育成

》中期経営計画(2023~25年度)

最終年度目標 完成工事高:1,700億円 完工総利益率:2.9% 営業利益:22億円



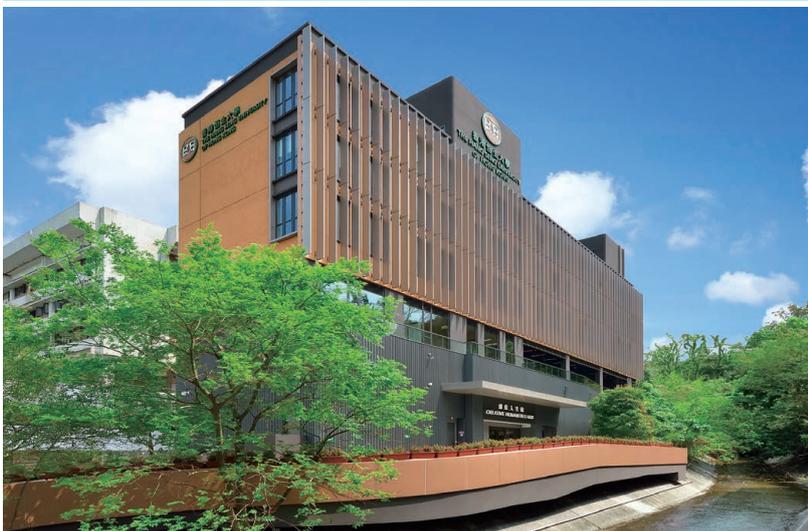
》2023年度の主な竣工工事

Contract for Construction of Port Facilities for Nacala Port Development Project Phase I & II (モザンビーク)



当工事は、モザンビーク政府発注の有償円借款プロジェクトで、既存のナカラ港を増深、埋立により拡張し、コンテナ船専用ふ頭を含む既設港湾施設を再整備する工事です。
ナカラ港はナカラ回廊とよばれるモザンビーク北部から近隣の内陸諸国を結ぶ国際物流ルートの玄関口となっており、当工事による同港の輸送能力の強化が、ナカラ回廊地域各国のより一層の発展と活性化に貢献することが期待されています。

Creative Humanities Hub (The Hang Seng University of Hong Kong) (香港)



当工事は香港恒生(ハンセン)大学のキャンパス拡張に伴い校舎を新築する工事です。供用するキャンパス内での施工のため、安全の確保には特に配慮しました。また、BIMを積極的に活用し、工程と仕上がりのイメージを関係者と共有することで工事を円滑に進めることができました。
最先端の音響や照明設備を備えた講堂と研究室等の新設により、幅広い教育と研究活動が可能になります。